

2) アフリカにおける未電化・未電波地域における活動

自己紹介

始めに自分の事を紹介いたします。名前は茂さんです。何人からか、「茂さん」と読んでくれる人もいます。これからは「茂さん」と呼んでください。

茂さんは、平成元年から13年までこの学校で用務員として仕事をしていました。先日各議場の前の花壇にお花を植えるとき、来ていたお母さん方と話をしていたら、茂さんがいたときの生徒さんでした。その時の生徒さんの子どもが皆さん方なんですね。さて、これから西アフリカのセネガルについてお話をして行きます。

ビデオ視聴

ここで4年前に8チャンネルで放送された長男のテレビを見たいと思います。短い番組なのでしっかり見て下さいね。先生お願いします。

今皆さんの生活から、電気と電波がなくなったら、どのような生活になるだろうか。朝起きて、日が昇るまで真っ暗。テレビもない、電子レンジも冷蔵庫もない。スマホも使えない。夕方暗くなればローソク生活。これが今、アフリカの生活なんですね。

私の長男がいま、アフリカのセネガルで活躍していることを、少し紹介致します。

まず、24才でパリに文化を学びに学生として渡航。演劇の勉強をしながら、パソコン修理などでバイトをしていました。このパソコンの技術を認められ、NTT ヨーロッパに引き抜かれる。学生ピザから就労ピザに切り替えるのに多額の弁護士費用が掛かったが、NTTで負担してくれたようです。

10年勤務したのち、会社を退職し独立。

34才で日本法人、株式会社シュークルキューブジャポン設立しました。シュークルキューブとは何ですか。これは角砂糖の意味です。名前が佐藤ですから。

35才の時、JICA アフリカ視察団としてにてアフリカに渡航し現地を査察してきました。JICA とは何ですか。

そうです。海外協力隊なんですね。詳細はネットで調べてみてください。

先ほどテレビで紹介されたように、電気のないところで出産時に医師が海中電気を口にくわえての出産で年間20万人母親が亡くなる。電気がないからしょうがないとあきらめているアフリカ。何とかせねばと、太陽光で充電できる、

また Wi-Fi 機能も備えていて、パソコンでの通信が使えるものを考案した。

秋葉原で部品を買い、試作に試作を重ね、出来上がりました。

太陽光パネルで充電し、明るい電気や、スマホの充電。スマホやパソコンが使えるように Wi-Fi 機能も搭載しました。2019 年にはセネガル保健省と覚書を締結、持ち運び可能な小型太陽光発電と Wi-Fi 通信をセットにした「ツミキスマートキット」を 10 ヶ所の診療所に導入しました。これにより多くのお母さん方が亡くなることなく、安心して出産することが可能となりました。

また、毎月町の病院に行って、パソコンにカルテを打ち込んでいたものが、その場で打ち込むことができるようになったとのうれしい報告がありました。

コロナでその後の進展はなかったが、この度、今年 JICA でこの実績が認められ、次のステップへ進むことができるとの報告があった。

社長は「満を持して採択されたました。JICA と共に母子の命を救えるチャンス到来なんだから。感慨深くて胃がいたくなってきたくらい。保険分野は稼ぎ出す分野でなく、国際連携は必ず必要な分野、それがないと、出産だけでも危険な出産で数十万人のお母さんがなくなっているのだ。無論、笑顔で育つだろう新生児も・・・」と言っていました。

2020年3月11日にはセネガルの大統領とお会いし短い時間だったけど TUMIQUI の電気と通信をセネガルの診療所に届けている話をしっかり聞いて下さった。また2年前にこの大統領が日本に来て、天皇陛下とお会いし、その後、岸田総理大臣と懇談した折、長男の事業の話が出たとの報告も有ったと報告がありました。

学校への電気と電波

この様な経緯から 2021 年 3 月、関西電力とセネガル共同実証をサンジャラ市で実行する。関西電力のご協力で、30mのアンテナを校庭に設置し、ツミキキットを使って、教室にテレビを設置。生徒一人一人にタブレットでの授業が始まった。教育省と提携を進め、セネガルのサンジェル市の20校に設置することができました。

またプリンターを設置したことで、資料が生徒の手元にも自由に配布できるようになったとのことです。

総理官邸での授賞式

これらを受けて、外務省主催の第5回ジャパン SDGs アワードに応募し、なんと特別賞をいただきました。写真は総理官邸のおいての授賞式です。



「僕らのアフリカ事業が日本政府や外務省がどの様な評価をしてくれるのか応募し幸いにも一定の評価は頂いたものの悔しくも上位では無かった辺りがまだまだこれから。さらに頑張らねば。」とのこと。

サンジャラ市の名誉市民

診療所や学校に電気や通信を取り入れた実績から、名誉市民の称号をいただき、市長より「佐藤さんは市民だよ」と言われている。

覚書をまじ合わせてから、7か月、未電化村落でのインターネット接続が現実になろうとしている。同市の市長は「我々は、このベンチャーのためのパイロットとなるでしょう。新技術、産業、科学、食品産業、など開発を誘致するサンジャラ市の経済特区を軸に、地域内にある未電化村落を Wi-Fi でつなぐことによって各地学校でネット接続が可能となり学生の学習や研究を促進することができると思えました。」と市長は話しています。

サンジャラ市内に組み立て・整備・修理工場を設置し、最終的には西アフリカ全体に輸出をしていきます。これによって現地の方々が組み立て、修理もでき、それぞれの方が生活に潤いを得る事が出来る。



外を見上げると、いたるところに太陽パネルがあるが、起動していない。外国から売りに来るが修理ができない。この国で生産すれば、修理などどこでもできる。素晴らしいことですね。

食糧問題解決へ

アフリカでは、未電化の為、冷蔵倉庫や冷凍設備がない。そのために収穫した農作物の半分以上が捨てられている。現在アフリカの人口は15億人。これが40年後には30億人になる。大変な食糧問題になっていくと思われる。このような状況から、今年度、トレーラーのような大きな冷蔵・冷凍倉庫を作った。これに各所に作ることによって、輸出や各地方に配送できる。素晴らしいね。

UNICEFに認められ、ガンビア122校に設置

長男のアフリカからのFBから、ものすごい前進的な内容が報告されてきました。セネガルで、電気・電波のないところに TUMIQUI Smart Kit という機材を持ち込み、電気電波のない学校にこの機材を用いて、大きなテレビと手元

のタブロイドを用いて、遠隔操作で授業ができるようになったもの。これが UNICEF の認められ、ガンビア122校に設置されるというもの。UNICEF では、学校に貼ってるポスターを見てみると、「子どもたちに出来る事。」として募金活動をしている。これがこのように問使われているんだね。

JICAによる診療所へのツミキキットの導入

母子の命を守る事業が、公式化になってきました。恐育や農業支援も回り始めているが、「母子の命を守りたい。」という課題解決への原点回帰で本当に心が震えるとのことでした。

診療所へのツミキキットの導入が、コロナでその後の進展はなかったが、この度、JICA でこの実績が認められ、次のステップへ進むことができるとの報告があった。

社長は「満を持して採択されたました。JICA と共に母子の命を救えるチャンス到来なんだから。感慨深くて胃がいたくなってきたくらい。保険分野は稼ぎ出す分野でなく、国際連携は必ず必要な分野だ。それがないと、出産だけでも危険な出産で数十万人のお母さんがなくなっているのだ。無論、笑顔で育つだろう新生児も・・・」

日本発アフリカスタートアップ x 日本の宇宙通信企業が MOU を締結

日本発アフリカスタートアップ x 日本の宇宙通信企業が MOU を締結

株式会社 シュークルキューブ ジャパン

2022年8月25日 21時31分

セネガルで電気と通信を未電化地域へと届けデジタルインフラサービス事業を展開する TUMIQUI Japon SASU (ツミキ・ジャポン) と、宇宙空間における光を利用した高速通信サービスを開発している株式会社ワープスペース (本社: 茨城県つくば市吾妻2丁目5-1-203 以下「ワープスペース」) は、今後ますます深刻化する世界の食糧問題に対し、アフリカを世界の食糧庫にしていく計画として、ワープスペースが構築する宇宙での通信網と、TUMIQUI Japon がセネガルで構築した太陽光エネルギー利用の通信拠点とを接続し、アフリカの広大な面積と距離の枠を超えられる通信手段の構築に向けた実証試験の検討に関する MOU を締結しました。